

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2009年2月)

発表日2009年4月8日(水)

～黒字に改善するも、基調は弱含み～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 小杉 晃子  
TEL : 03-5221-4548

		原数値 経常収支						季調値 経常収支					
		前年比	貿易・サービス収支			所得収支		前期比	貿易・サービス収支			所得収支	
			前年比	前年比	前年比	前年差	前年比		前期比	前期比	前期比	前期差	前期比
07	7月	18515	4.3	▲30.7	▲19.4	▲155	24.6	19929	0.9	3.3	8.3	▲523	1.2
	8月	20811	42.1	316.2	180.1	▲435	7.3	21539	8.1	32.3	27.9	▲249	▲8.7
	9月	29259	42.5	77.1	59.9	378	16.0	23574	9.4	▲1.5	▲10.4	1188	20.6
	10月	22065	44.2	97.6	50.4	385	21.8	25673	8.9	11.3	13.5	▲391	3.9
	11月	17058	▲2.3	▲16.8	▲12.1	▲343	15.2	19965	▲22.2	▲26.3	▲17.2	▲780	▲16.3
	12月	15891	▲10.8	▲33.0	▲18.2	▲1164	19.4	17960	▲10.0	▲54.0	▲38.5	▲402	22.1
08	1月	11637	1.8	赤字	▲36.9	▲34	7.2	18058	0.5	54.3	24.7	469	▲13.1
	2月	25142	4.8	▲9.2	▲7.0	▲168	14.3	15546	▲13.9	▲54.8	▲39.3	▲28	4.7
	3月	29024	▲11.7	▲33.3	▲29.3	▲788	6.6	18523	19.1	70.2	35.9	95	3.8
	4月	13859	▲29.4	▲59.1	▲41.9	1347	▲17.1	16341	▲11.8	3.7	▲9.9	859	▲12.6
	5月	19804	▲6.8	16.2	▲0.1	687	▲12.5	18940	15.9	40.1	26.8	267	3.4
	6月	4716	▲68.9	▲99.8	▲81.5	▲440	25.1	14168	▲25.2	赤字	▲63.4	▲981	11.2
	7月	15318	▲17.3	▲93.5	▲69.8	1133	9.6	15315	8.1	-	59.4	739	▲7.4
	8月	9888	▲52.5	赤字	赤字	1004	▲5.1	9257	▲39.6	赤字	赤字	93	▲6.0
	9月	14979	▲48.8	▲94.0	▲86.0	92	4.7	13441	45.2	赤字	-	▲315	9.1
	10月	9605	▲56.5	赤字	▲87.2	122	▲16.3	12056	▲10.3	赤字	-	▲85	▲7.8
	11月	4991	▲70.7	赤字	赤字	▲588	▲15.5	5384	▲55.3	赤字	-	▲43	▲5.2
	12月	1254	▲92.1	赤字	赤字	▲21	▲27.8	5570	3.5	赤字	-	▲1471	▲13.5
09	1月	▲1728	赤字	赤字	赤字	▲42	▲31.5	2580	▲53.7	赤字	-	925	▲6.0
	2月	11169	▲55.6	▲94.3	▲80.4	▲478	▲34.1	6734	161.0	赤字	-	▲228	▲0.5

(出所)財務省「国際収支状況」

## ○2月の経常収支は再び黒字に改善

2月の経常収支は1兆1,169億円(原数値)と2ヶ月ぶりに黒字に転化した。貿易収支をみると、世界的な景気悪化を背景に輸出の大幅減少が続くなか、国内需要の低迷や企業の在庫調整により、輸入が更に大きく減少したことで、貿易収支は4ヶ月ぶりに黒字となった。所得収支については「証券投資収益」「直接投資収益」を中心に、黒字幅が縮小した。貿易収支は黒字に回復したものの、所得収支の縮小幅が大きいことから、経常収支の黒字幅は低水準に留まっている。

## ○サービス収支、所得収支ともに減少

経常収支の内訳をみると、貿易収支は2,021億円(前年比▲94.3%)と4ヶ月ぶりに黒字に回復した。海外経済の失速を受けて、輸出(前年比▲50.4%←1月同▲46.3%)が大きく落ち込んだ一方で、輸入(前年比▲44.9%←1月同▲31.7%)の減少ペースが加速したことが、黒字転化につながった。

サービス収支は▲1,491億円(前年比+47.2%)と、3ヶ月連続で赤字幅が拡大した。貿易量の縮小により輸送の受払いが減少したことや、世界的な景気後退や円高の進行により、訪日外客数が減少したことが影響していると考えられる。

所得収支は1兆1,045億円(前年比▲34.1%)と前月(同▲31.5%)に引き続き黒字幅が大きく縮小した。「直

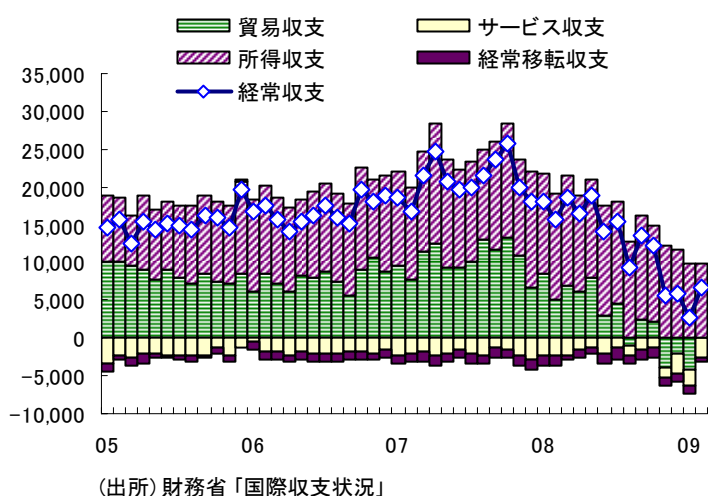
接投資収益」に関しては、日本企業の海外法人の収益悪化を背景に「再投資収益」などが減少し、「証券投資収益」においては、海外金利の低下などにより「債券利子」及び「配当金」の受取額が減少した。

### ○今後も経常収支は低調に推移する見通し

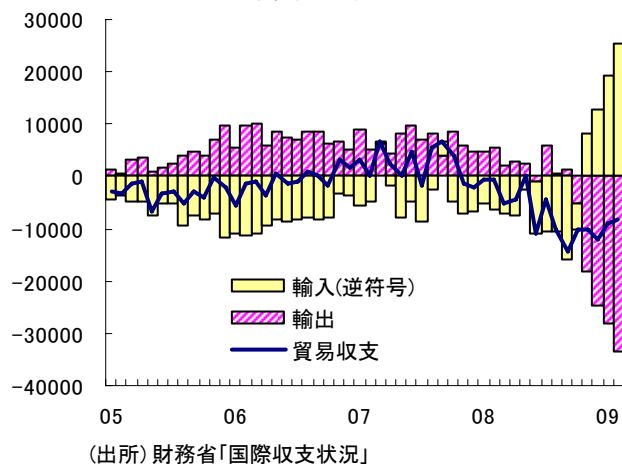
経常収支の先行きについて展望すると、まず所得収支については、海外子会社の業績悪化、金利の低下などから今後も黒字幅の縮小が続くと予想される。

次に、貿易収支は単月では黒字に改善したが、基調としてみれば今後も弱含みの状態が続くであろう。たしかに、輸出に先行するISM指標はここに来て下げ止まりの傾向にあるが、依然水準は極めて低い。貿易統計の結果をみても、3月上中旬の輸出は前年比▲47.1%となっており、輸出の落ち込みが続いている状況に変わりはない。今後も当面、経常収支は低調に推移するだろう。

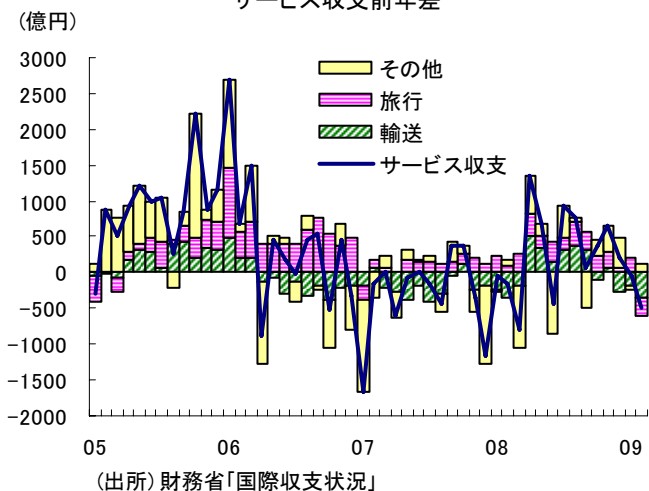
経常収支(季調値)



(億円) 貿易収支前年差



サービス収支前年差



所得収支前年差

